

令和三年度

修士論文・卒業論文題目

大学院文学研究科

〈文化財学専攻〉

佐藤 彩花 御霊信仰と水信仰の関係について―大分県を中心に―

根塚 菜摘 弦楽器の考古学的検討

馬場 駿二 農業用水からみた地域開発の歩みと未来―旧岡藩領を中心に―

史学・文化財学科

〈日本史・アーカイブズコース〉

安東 諒 明治期の天皇輔弼と君主意識

石川 眞生 鎌倉―戦国の間における日本刀の存在意義や価値―東国武士の心を掴み、魅了した相州派の刀を中心に―

石橋 滉大 室町時代から江戸時代までの一揆の捉え方

市瀬 茜 原城と島原の乱

岩永 陸人 本能寺の変について

上野 華奈 小倉城と細川氏

植野 紅葉 外様大名について

上野 千尋 水城について

上野結佳子 『太平洋戦争』前後の日本人の戦争観の変化について

内山 花梨 日本中世における「遊び」と儀礼

衛藤 惇 響 日本の国際連盟脱退の理由と影響

翁長 尚希 中世社会と悪党

片岡 憧美 鎌倉幕府と朝廷―六波羅探題を中心として―

川口 周万 伊勢神宮 儀式の変遷

川畑 友大 応仁の乱に関わった人物について―足利義視の応仁の乱中及びその前後の動向―

原 彰斗 日露戦争における日英同盟

木下 稔也 織田信長と朝廷との関係

工藤 奏美 日露の外交関係と満州権益

工藤 蛍 明治期の日本人留学生について―瀧廉太郎の遺作「憾」を中心に―

久保 流 豊薩戦争―島津軍が攻略できなかった豊後岡城―

小浦 遼 戦国武将の家紋について

五郡 裕香 大友家における分国法について

齋藤 建 分国法の変遷

坂本 悠生 文禄・慶長の役における「肥前名護屋」

佐藤 匠 堺商人について

佐藤 冬奈 日本情勢と条約改正

柴田 祐華 蒙古襲来とは何だったのか

芹ヶ野 大 本能寺の変の謎について

田井野太一 江戸時代の私塾の教育内容について

田口 遼太 蒙古襲来絵詞と竹崎季長

竹下 涼太 戦国期の肥後における国衆の検討―肥後国一揆を中心に―

猛野 有希 日本人の色彩感覚―青と緑を中心に―

竹ノ内彰太 薩長同盟論歴史的意義について

田崎 樹生 戦争遺跡の保存と活用を通して戦後日本の戦争に対する認識の考察

田代 綾 土族反乱の社会的評価について―西郷と江藤の評価―

田中 瞭 松江城について

塚本菜々子 熊本城について

鶴山 竜也 五代友厚が大阪経済へ与えた影響について

中里 真弥	中世九州における曹洞宗寺院の研究	有富 亮輔	カナダ連邦の結成	早瀬 有美	近世・近代のフランスの食文化
野間 奏美	日本近世の茶碗について	岩尾 燎真	後漢代の宦官の職務と職権	細貝 陽郁	近代イギリスの食文化
長谷川榛哉	飢肥藩の教育とその影響	牛島 未来	ナチスによるホロコースト	前田 啓成	古代マヤにおけるトウモロコシ
東 海玖	松山城・防御施設及び築城理由	小形 雛子	ニーベルングンの歌について	宮本 晋吾	キリキア・アルメニア王国の興亡
平山 好基	諫早一揆と百姓・武士の関係	茅島あきね	日本災害史	山本 実子	中世イタリアにおけるペストについて
廣田 一朗	日中戦争について―なぜ長期化したのか―	川辺 澪花	日仏の女性服飾文化に関する変遷と歴史的比較	吉崎 理葵	スペイン風邪の世界的拡大とその影響について
福田 功龍	現代日本政治の中の「55年体制」	後藤 菜月	19世紀アイルランドのジャガイモ飢饉	渡邊 達裕	秦の中華統一と崩壊
藤原 朋矢	織田家家臣団内における明智光秀について	古和 大地	古代エジプトの社会と文化	渡邊 陽斗	産業革命が与えた経済と社会の変容
町田 優華	1930年代における天皇機関説事件と政界	佐藤 公輝	ハンザ同盟と北ヨーロッパ商業圏	安部 彩純	大分の木綿織物に関する研究―地域アイデンティティとしての可能性―
松岡 太樹	徳川家康のキリスト教政策について	高橋 礼旺	ヨーロッパ美術におけるジャポニズムと印象派―蒙古襲来とは何だったのか―	東 朋子	姫だるまの起源と歴史―竹田市を中心に―
松田 哲也	偽金問題について	田中 誠大	近世ドイツの魔女狩り	原 龍信	琉球泡盛の歴史―酒からみる沖縄の文化と歴史―
吉武 春奈	江戸期の食文化について	富高友一朗	17世紀科学革命―ニュートンを中心に―	牛島 杏実	日本の水信仰―蛇と龍の関係から読み解く―
米口 翔大	織豊期の政治情勢と黒田官兵衛	外山 一枝	西洋近代におけるジェンダー意識の変化と社会変容	内原 英斗	御霊となった大野泰基
阿南 成也	西洋戦略思想の観点から見た真珠湾攻撃	中山 朝陽	戦国秦における強国化と中華統一の過程	大谷 七海	川を渡る神輿―風治八幡宮川渡り神幸祭を中心に―
安倍 康平	アメリカ合衆国における黒人の歴史と文化	馬場 智章	オスマン帝国の近代化について		
		濱野 千波	近世フランスの宮廷文化		

- 岡田 健太 日本における捕鯨文化の成立と発展―長崎県を中心に―
- 香川 七海 田の神信仰とその石造物宮崎県三股町を例にあげて
- 久木田 杏夏 別府市の狛犬に関する研究
- 小石 健 森を破壊する神社合祀―日本の近代化と伝統のゆらぎ―
- 後藤 唯 九尾狐のイメージの変遷―ジェンダー論的視点から―
- 田島 潤 北部九州の火祭りの比較研究―大分県国東市ケベス祭りを中心に―
- 堀 貴裕 岡城とは―市民の目線から探る―
- 瀬田 諭志 イカ漁とエギについて―宮崎県日南市を中心に―
- 松崎那津希 別府市の鬼を使った町おこしについて―鬼のイメージ変遷を中心に―
- 松田 涼花 阿蘇地域における神社の宮彫について―阿蘇市を中心に―
- 宮部 桂 別府八湯の公共浴場における地藏信仰―別府・浜脇温泉を例に―
- 山下 雄也 「城山の鐘」が語る延岡の歴史
- 吉岡 琴美 語り継がれる昭和の記憶―豊後大野市 昭和の世相人形 絹さし人形を事例に―
- 脇坂 萌生 和額装の修復の実践を通して
- 渡部 里紗 猪に関する信仰九六位山周辺の信仰を事例に
- 〈考古学・保存科学コース〉
- 秋山 大海 九州における弥生中・後期の絵画土器成立過程とその背景
- 有安 遼平 長崎県内の遺跡から出土した瓦質土器に関する研究
- 池下 和樹 九州における立岩産石庖丁の流通と交易―奴国を中心として―
- 市丸 幸樹 戦国時代の山城における曲輪の配置と九州内における北と南での城郭構造の違い
- 大井 悠矢 大学所蔵の出土金属製品の保存修復
- 大川 諒 「大浦天主堂」が建築物として明治・大正期の日本の教会建築に与えた影響
- 片伯部 凌 民俗例にみる土器焼成と弥生土器焼成について
- 河野 美帆 東九州における下城式土器の展開と終焉
- 北村 和城 中津市歴史博物館における環境調査―温湿度・空気汚染について―
- 木林 俊英 3D計測技術を活用した文化財の修復―円通寺遺跡出土の仿製内行花文鏡から―
- 佐藤 愛南 九州の古墳の墳丘斜面角度の検討
- 佐藤 辰樹 大分県中津市の名勝耶馬溪と耶馬溪地域の文化財の保存と活用方法
- 田中 侑 中世都市 博多における鋳物師の分布について
- 棚田 優人 終末期古墳から見る畿内と豊前国の関係
- 永坂あかり 豊前上毛・下毛郡の古代の景観復元―寺院・神社の立地の背景を考える―
- 中路 大貴 戦争遺跡の存在意義
- 長田 洗希 九州における神子柴石器群の流入プロセス
- 野上 寛登 九州における阿高式系土器の解体と磨消縄文土器の流入について
- 藤塚 大翔 幕末佐賀藩の科学技術
- 本田 広太 朗島原半島のキリシタン墓碑について
- 末海 菜月 日向国における地下式横穴墓出土の朱玉の成分について

- | | |
|-------|---------------------------------|
| 松本 佳子 | 原爆ドームの保存と未来に残すためにすべき事 |
| 松本 俊矢 | 出土水浸木材の保存処理における薬剤の含浸速度の違いについて |
| 山岡 由季 | 豊後高田における玉津焼について |
| 山本 紗希 | 隼人の葬送儀礼について「地下式横穴墓の赤色顔料の散布状況から」 |
| 吉倉菜々美 | 北方下角遺跡出土銅鏡の保存修復と保管環境 |
| 吉満 和花 | 墓石から見る近世の別府 |
| 米田 拓未 | 大内氏館跡庭園と周辺関連遺構の研究「大内氏の作庭観」 |